

草刈りの作業手順(規制内)

	内 容	留 意 事 項
準備工	作業打合せ(KV活動)	安全作業指示書による
	作業位置の確認・交通規制の確認	発生草搬入場所の確認も行う
	作業人員の確認	作業分担・配置の確認
作業開始	使用機械・工具の点検	機械・器具の不備はないか始業前、終業後点検の励行 刈払機のヘッドとシャフトの連結部は必ずレンチにてゆるみ等がないか確認する。 2023.4追加
	保護具の確認	防護メガネ・肩掛けバンド等
ケーブル確認 危険物の除去	作業前にケーブル露出箇所の確認	作業前にケーブル有無を確認し、ケーブル露出箇所については草刈機を使用せず、手鎌等にて人力で刈り取る。
	危険物(ゴミ等)の除去	露出ケーブルは、注意看板又はスプレー等で明示し、刈り手に場所を説明 不法投棄による危険物は前もって除去する
刈込み及び草集め	肩掛け式草刈り機にて刈り込み	高速道路、一般道路の近接部のり面等では、飛石等により第三者被害を及ぼす可能性のあるのでトリマー式草刈機で施工する 刈り手、寄せ手の作業間隔を5m以上開ける 刈り手は、保護メガネを着用
	刈り倒した草を寄せ集める	手鎌による刈り込みは、耐切削用の手袋を使用する。 のり面等の急な斜面は足元確認(滑り止め付きシューズの使用)
積込み	バックカー車及びトラックに積込み	車両は安全な場所に駐車する トラック積込みは荷台に人が乗って移動しない バックカーの場合は、バック車積み込み作業手順書による
仕上げ	排水溝内、積込み箇所の清掃	排水溝内に刈った草はないか確認する 積込後の草は散乱しないか確認する
草運搬	指定された場所へ運搬する	距離を回送するので速度に充分注意 トラックの積荷確認、バックカー車のゲートロック確認確実実行
後片付け	終礼の実施	ヒヤリ・ハットの実施

注意事項	<p>作業床が地表より2.0m以上及び危険性のある高さに関しては、事前に親綱を設置し安全带を使用する また、40度以上の斜面で高さが2m以上の箇所での作業は、「ロープ高所作業」の特別教育を受けた作業員が行うものとする。のり面では上下作業にならないようにする。</p> <p>のり面での親綱の設置は、Gr支柱・遮音壁支柱への追加や鋼杭を打込んで親綱を設置する 作業員が墜落する恐れのある箇所は、高所作業車を使用する 発生草は指定された場所以外への搬入禁止 ケーブル露出箇所では機械刈り禁止 刈り手は保護具(防護メガネ、肩掛けバンド)を確実着用 離断で民地へ立ち寄らない 夏季は、ハチ注意(咬虫剤・ホイズリムマー)の携帯。また、野生の動物や虫にはむやみに触れない。猫に噛まれ感染症になった事例有り 振動工具を使用する際は、決められた作業時間及び休憩時間を厳守すること 2023.4追加 フレッド等を交換した際はレンチにて確実に締め付けられていることを確認すること</p>
------	---

羽島事業所管内 仮設ケーブル損傷事故報告



- ・ 事故発生日時： 2020年6月25日(木) 11時23分頃
  - ・ 維持修繕名： 2020年度 名神高速道路 羽島管内維持修繕業務(法面草刈)
  - ・ 事故発生場所： E1名神高速道路 370.0KP付近 (大垣IC~岐阜羽島IC間 大垣39BOX付近)
  - ・ 事故概要： 法面草刈作業中、フェンス際の列植をエンジン式ヘッドリマーにて剪定中、支障移転した仮設ケーブルを損傷させたもの。
- 【近道・省略行動の禁止】** 作業員は仮設ケーブルの付近は、手刈りで作業することを作業手順書で確認して知っていたが、笹が繁茂しており、作業が手間(時間が掛かる)と思い、機械(エンジン式ヘッドリマー)で作業してしまいました。  
また、このぐらいなら機械を使っても大丈夫と思って作業を行った。
- ・ 被害状況： 通信ケーブル損傷(マル50 3基、路車間装置3基、所要時間板1基の制御不可)
  - ・ 時系列： 11:23 故障発生のアラーム → 16:00 損傷箇所復旧完了 (障害回復まで4.5h)

・ 損傷事故現場



・ 損傷現場復旧



<事故事例> 草刈り作業中に薬品の容器を切断して薬品を被る

P0

1. 事故発生日時： 平成31年2月27日(水)15時15分頃
2. 事故発生場所： 名神高速道路 小牧IC~一宮IC間 小山高架橋下
3. 事故の状況：
  - ・ 名神の高架下で草刈中に、草に埋もれていたプラスチックボトルに草刈刃が当たり、ボトルの液体が、集草中の作業員Aの左足裏側(尻からふくらはぎ)にかかった。
  - ・ 草刈をしていた作業員Bも液体のにおいを嗅いでしまった。
  - ・ 作業員Aがヒリヒリすると言うので、一次下請会社へ作業責任者から電話で報告をして作業員Bも併って病院へ行く事とした。
4. 薬品名： クレゾール石鹼液 (ボトルにあった名称)
5. 対策： 事前の現場確認(劇薬の不法投棄を考慮すること)

